

2023年10月18日
株式会社SVPジャパン

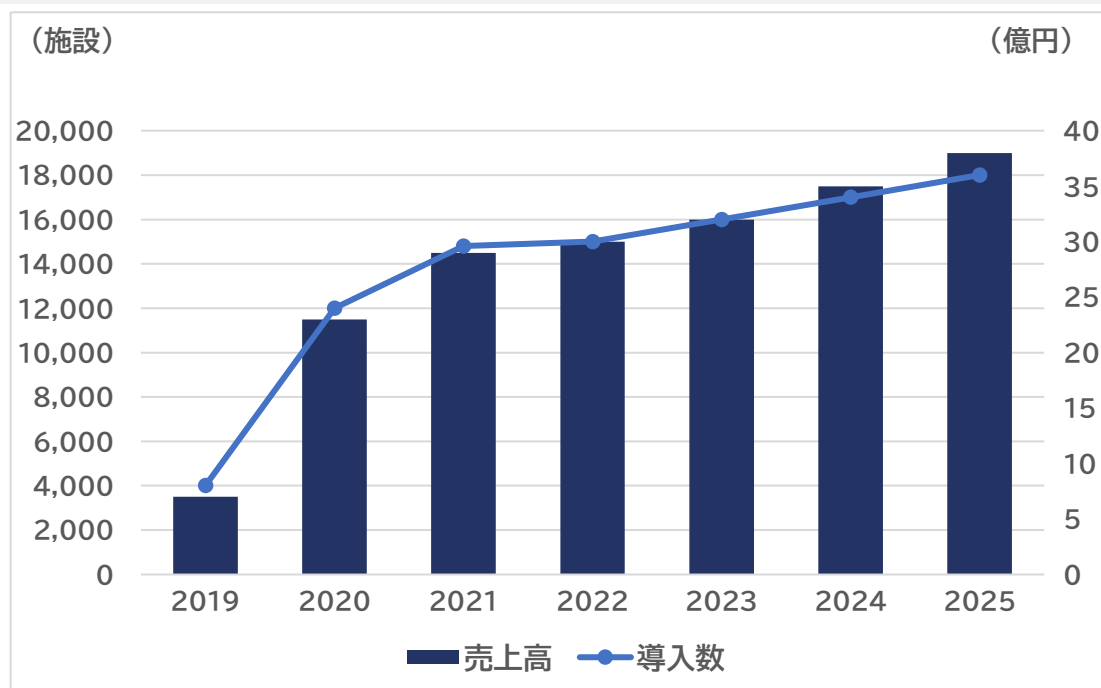
SVP注目市場分析 「ヘルステック（オンライン診療システム）」を公開

～自宅にいながら、医師の診療を受けられる～



会員企業に対して公開情報を用いたビジネス情報提供を行う、株式会社SVPジャパン（本社：東京都中央区、代表取締役社長：橋本 雅、以下「SVPジャパン」）は、本日、SVP注目市場分析レポートの「ヘルステック（オンライン診療システム）-国内市場の現状と将来展望-」について会員企業向けに公開いたしました。

■ヘルステック（オンライン診療システム）の国内市場



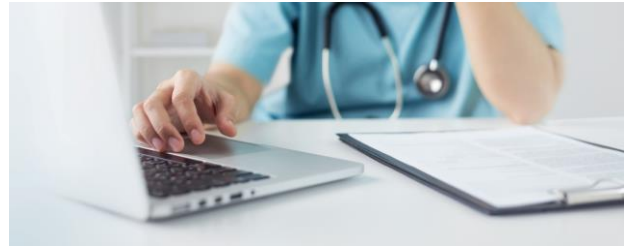
オンライン診療システムを導入している医療機関は、2022年までの累計で約15,000施設、金額ベースの市場規模は、システムの利用に関わる費用として約30億円と推定される。日本国内の医療機関のうち、歯科診療所を除く施設数は病院が約8,200施設、診療所が約10万3,000施設の計約11万施設となっており（厚生労働省「医療施設動態調査」による）、これに対するオンライン診療システムの普及率は約14%となっている。

コロナ禍がオンライン診療システムを普及させる大きな要因となり、大規模な病院から診療所を含めて、2020年に導入数が飛躍的に増加したが、22年以降はほぼ横ばいの推移となっている。

■ヘルステック（オンライン診療システム）の市場概況

オンライン診療については、地方における医療機関の不足に対応する取り組みとして、厚生労働省などによるルール整備が進められてきた。当初のオンライン診療は、離島やへき地での診療において実施が可能とされてきたが、2015年に厚生労働省から、都市部でも実施が可能とする通知が出された。これを契機に、2016年以降、オンライン診療を行うための専用のシステムが提供されるようになった。

利用方法として、医療機関側は、オンライン診療システムを導入することで、診療のためのビデオ通話の他、診療の予約、保険証画像などのファイル共有、決済機能、処方箋の送信などの機能を利用できる。患者側の利用方法としては、専用のアプリを使用するものと、Webブラウザで利用するものがある。システムを提供する事業者側は、医療機関が支払う初期費用や月額利用料、個々の診療費の決済額に応じて支払う手数料などとして売上を得るビジネスモデルとなっている。



実用化が進んでいるヘルステックの主な領域とオンライン診療システムの位置づけ



■本レポートの構成

- I. 市場の定義
- II. 市場動向
- III. 市場規模・予測
- IV. マーケットシェア
- V. 参入企業の動向
- VI. 業界構造

■本レポートの購読について

本サービスのご利用は、SVP会員様限定でございます。

ご希望の場合は、当社SVP会員になっていただきますと、定期的に配信する市場調査レポートを全てご購入いただけます。なお、SVP会員は、ビジネス調査に関する、クイックリサーチとプロジェクトリサーチもご利用いただけます。

[お問い合わせは、こちらをクリック](#)



資料請求

お問い合わせ

[SVP会員の方は、こちらをクリック](#)



会員サイト

■次回のテーマ

11月のテーマは、「ヘルステック（運動・健康管理支援サービス）」と「ロボット（手術支援ロボット）」です。

～SVP注目市場分析レポート更新スケジュール・・・毎月第1・第3水曜日の発刊を予定～

[会社概要]

社名 : 株式会社SVPジャパン
代表取締役 : 橋本 雅
所在地 : 東京都中央区日本橋蛸殻町1-38-9 宮前ビル2F
設立年月日 : 1974年7月1日
事業内容 : 会員制のビジネス情報提供サービス
URL : <https://www.svpjapan.com/>

[本プレスリリースに関するお問い合わせ先]

株式会社SVPジャパン デジタルマーケティング部
info@svpjapan.com